

||お知らせ||

コンタクトレンズによる眼障害アンケート調査の 集計結果報告 (平成 22 年度)

社団法人日本眼科医会 医療対策部
高橋 和博・宇津見義一・藤堂 勝巳
魚谷 純・福下 公子・高野 繁

緒 言

コンタクトレンズ (以下 CL) 装用者は、約 1,500 万人から 1,800 万人といわれており、総務省統計局発表の平成 21 年の総人口 1 億 2,700 万人から見ると少なくとも国民の 7 人から 9 人に 1 人が CL を使用していることが推測される。また、CL を実際に使用しているであろう 15 歳から 64 歳の人口 8,149 万人から見ると 4 人から 5 人に 1 人が CL を使用していることを示す。CL は素材の面からはハードコンタクトレンズ (以下 HCL) とソフトコンタクトレンズ (以下 SCL) に分かれるが、近年は 1 日使い捨て SCL や 2 週間頻回交換 SCL の使用が増加している。SCL の素材においては従来の HEMA 系素材の他に近年ではシリコーン・ハイドロゲル素材 SCL の使用が増えてきている。

日本眼科医会はこれまでに実施したアンケート結果から、CL 使用者の 5.0~10.0% に眼障害が発生していると推察している¹⁻¹⁰⁾ が、平成 21 年度に引き続いて平成 22 年度も同時期にアンケート調査を実施したので、その結果を報告する。

方 法

本会会員の 6,116 の眼科医療機関に「コンタクトレンズによる眼障害アンケート調査票 (個別報告書, 月間報告書)」を送付し、平成 22 年 10 月 1 日から 31 日までの 1 ヶ月間の調査を依頼した。

個別報告書の調査項目は CL による眼障害を生じた症例の年齢、性別、CL 処方施設、CL 購入店、自覚症状、他覚所見、CL の種類、装用状況、装用日数、装用時間、定期検査、眼障害の原因 (使用方法が原因と考えられるもの、CL 自体の原因と考えられるもの、処方・ケアが原因と考えられるもの) である。

月間報告書は個別報告書の各項目における 1 ヶ月の集計表であった。月間報告書ではこの期間中に CL 処方・

検査を含めて CL に関して受診した患者総数と、これらの患者の中で CL による眼障害で受診した患者数も調査した。

上述の個別報告書と月間報告書は日本の眼科 81:9 号 (2010) の 1200~1204 頁に掲載した。

結 果

273 の眼科医療機関から回答があった (回収率 4.5%)。病院が 8 施設、診療所が 265 施設であった。個別報告書の回答数は 2,435 件で、月間報告書の回答数は 273 件であった。これら眼科医療機関のうち CL 処方・検査を含めて CL に関して受診した患者総数は 48,033 名で、CL による眼障害で受診した患者数は 2,435 名 (5.0%) であった。1 眼科医療機関あたりの平均 CL 眼障害患者数は 8.9 名であった。月間報告書の集計結果を以下に記す。

1. 患者数

CL 処方・検査を含めて CL に関して受診した患者総数は 273 眼科医療機関で 48,033 名であった。これらの内、CL による眼障害で受診した患者数は 273 眼科医療機関で 2,435 名であった。

2. CL による眼障害

1) 年 齢

年代別では、10 歳代が 17.7%、20 歳代が 37.9%、30 歳代が 25.2%、40 歳代が 13.4%、50 歳以上が 5.9% であった (図 1)。

2) 性 別

男性が 28.1%、女性が 71.9% であった (図 2)。

3) CL の処方施設

一般病院 (大学病院を除く) が 1.9%、大学病院が 0.0%、一般眼科診療所が 47.6%、CL 量販店に隣接する眼科診療所が 30.2%、眼鏡店に隣接する眼科診療所が 4.0%、医師の処方を受けなかったが 8.5%、その他が 0.9%、不明が 6.9% であった (図 3)。

4) CLの購入店

眼科施設に隣接する販売店が54.1%, CL量販店が22.5%, 眼鏡店が5.6%, 通信販売が1.4%, インターネット販売が7.3%, 薬局が0.3%, 外国で購入が0.3%, 譲渡が0.1%, その他が2.0%, 不明が6.3%であった(図4)。

5) 自覚症状(複数回答可)

充血が23.7%, 異物感が14.9%, 疼痛が18.1%, 視力低下が3.8%, かすみがかすみ4.2%, 流涙が4.8%, 眼脂が7.4%, 乾燥感が5.2%, かゆみが7.7%, 自覚症状なしが7.3%, その他が2.9%であった(図5)。

7.3%, その他が2.9%であった(図5)。

6) 他覚所見(複数回答可)

毛様充血が12.9%, 巨大乳頭結膜炎が6.6%, アレルギー性結膜炎が15.2%, 乾性角結膜炎が7.5%, 点状表層角膜症が21.4%, 角膜上皮びらんが10.8%, 角膜浮腫が1.8%, 角膜潰瘍・角膜浸潤が11.1%, 角膜血管新生が3.1%, 虹彩炎が1.0%, 角膜内皮細胞減少が0.5%, 低矯正・過矯正が1.5%, その他が6.5%であった(図6)。

7) CLの種類

HCLが12.2%, 従来型SCLが8.0%, 1日使い捨てSCLが17.6%, 1週間連続装用使い捨てSCLが0.7%,

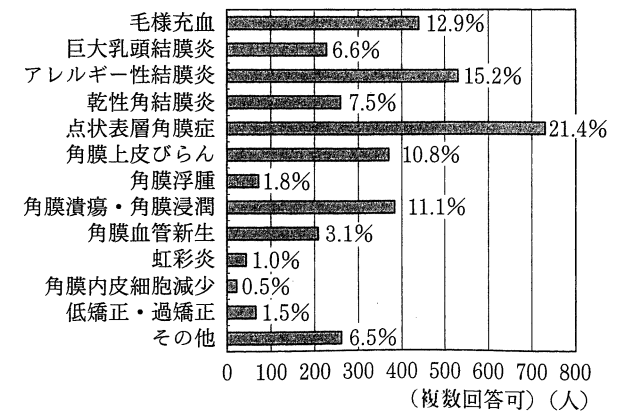
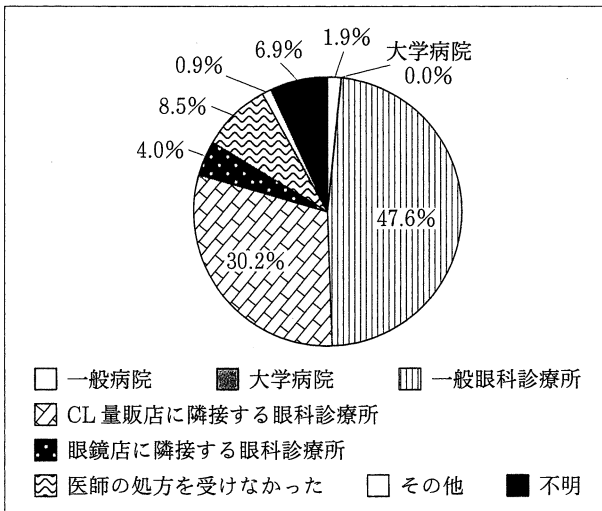
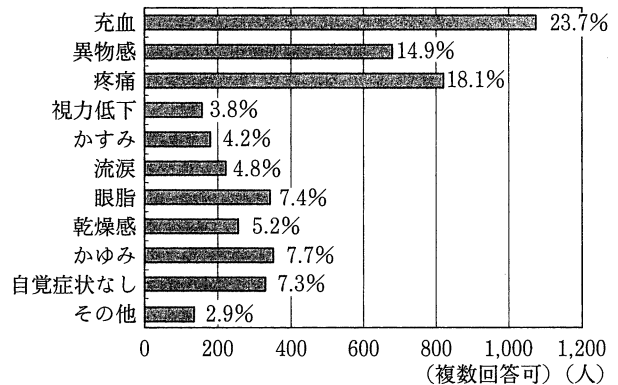
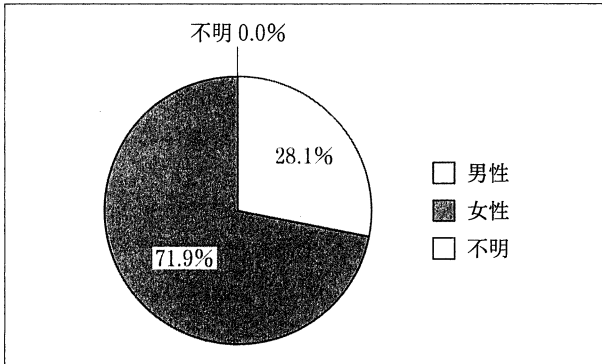
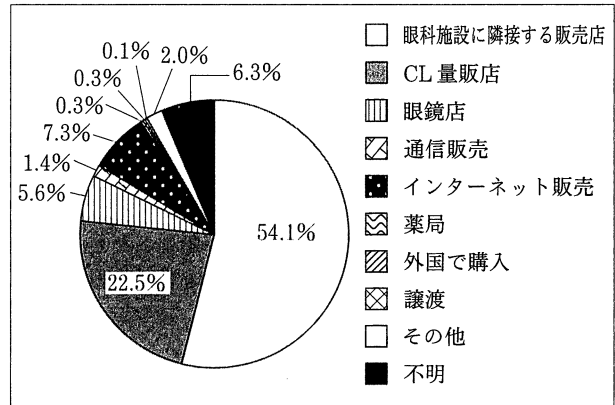
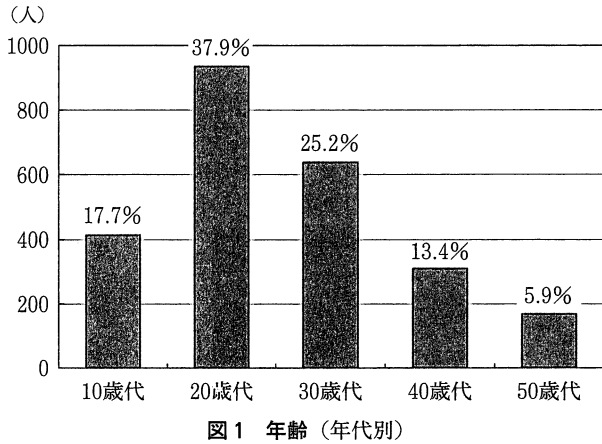


図3 CLの処方施設

図6 他覚所見(複数回答可)

2週間頻回交換 SCL が 45.0%，1～6 ヶ月定期交換 SCL が 5.7%，カラー SCL が 4.6%，度のないカラー SCL が 5.7%，オルソケラトロジーレンズが 0.0%，その他の未承認レンズが 0.3%，不明が 0.3%であった (図 7)。

8) 装用状況

終日装用が 91.1%，連続装用が 3.1%，不明が 5.8%であった (図 8)。

9) 装用日数

毎日が 79.3%，週に 4 日以上が 7.5%，週に 3 日以内が 2.8%，不定期が 3.5%，その他が 0.8%，不明が 6.0%であった (図 9)。

10) 装用時間

16 時間以上が 23.0%，8～16 時間が 62.7%，4～8 時間が 3.7%，4 時間未満が 0.4%，不規則 (オケーショナルユース) が 1.3%，その他が 8.5%，不明が 0.4%であった (図 10)。

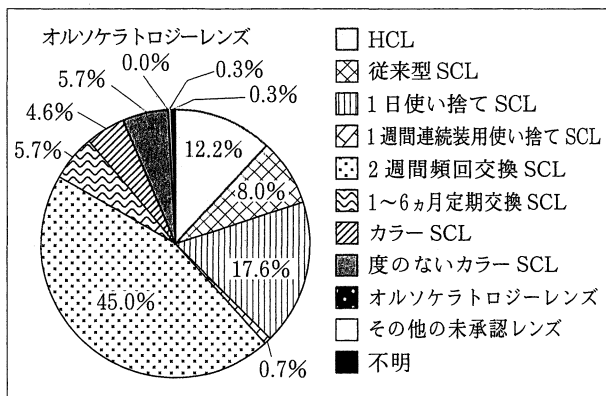


図 7 CL の種類

間が 3.7%，4 時間未満が 0.4%，不規則 (オケーショナルユース) が 1.3%，その他が 0.4%，不明が 8.5%であった (図 10)。

11) 定期検査

全く受けていないが 29.0%，年に 1 回が 14.1%，半年に 1 回が 21.3%，3 ヶ月に 1 回が 19.6%，月に 1 回が 1.8%，医師の指示通りが 3.1%，その他が 2.8%，不明が 8.4%であった (図 11)。

12) 眼障害の原因 (複数回答可)

① 使用方法の問題 (2,281 症例)

長時間装用が 53.6%，使用期限を超えた装用が 11.9%，消毒不適が 8.0%，洗浄不良が 19.7%，その他が 6.8%であった (図 12)。

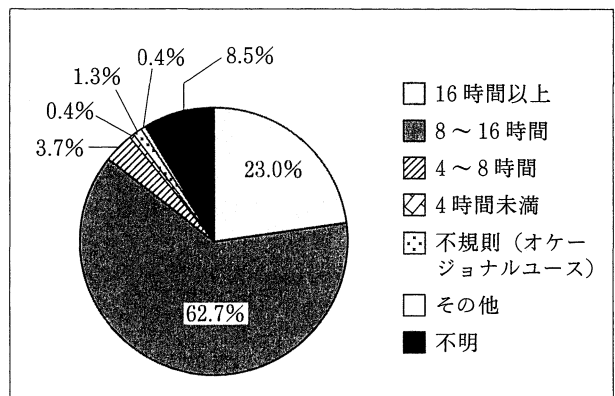


図 10 装用時間

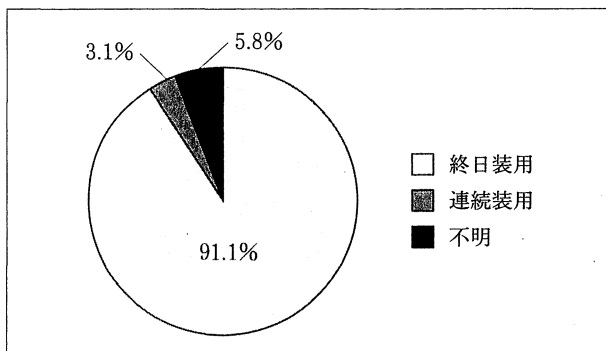


図 8 装用状況

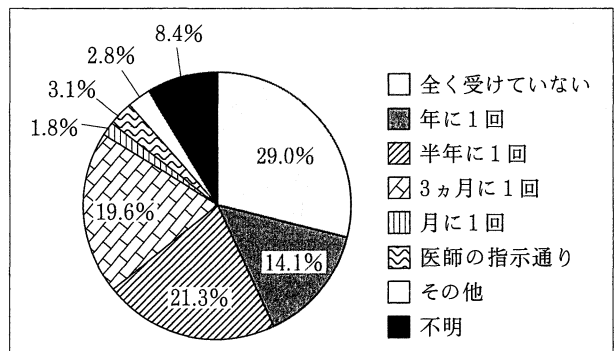


図 11 定期検査

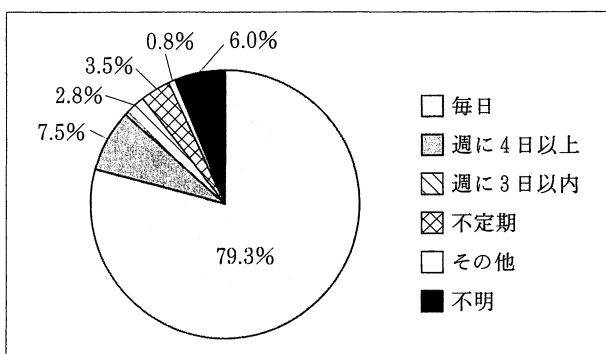


図 9 装用日数

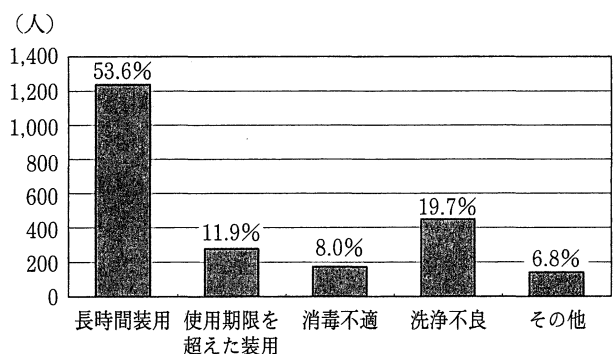


図 12 眼障害の原因 (使用方法)

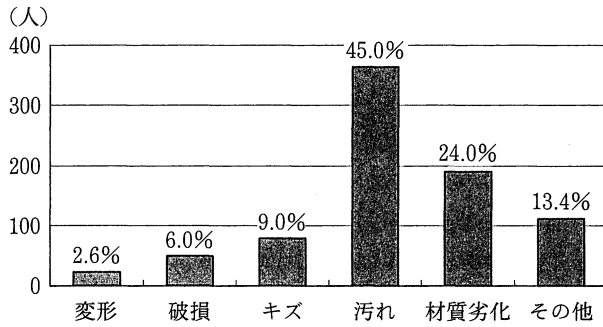


図 13 眼障害の原因 (CL 自体)

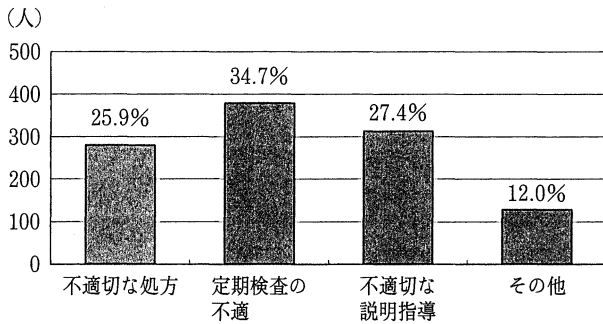


図 14 眼障害の原因 (処方・説明)

② CL 自体の問題 (815 症例)

変形が 2.6%, 破損が 6.0%, キズが 9.0%, 汚れが 45.0%, 材質劣化が 24.0%, その他が 13.4%であった (図 13)。

③ 処方・説明の問題 (1,133 症例)

不適切な処方が 25.9%, 定期検査の不適が 34.7%, 不適切な説明指導が 27.4%, その他が 12.0%であった (図 14)。

考 察

平成 22 年に実施した CL による眼障害アンケート調査では 1 ヶ月間に 273 の眼科医療機関 (回収率 4.5%) から報告があった。CL による眼障害で受診した患者数は、平成 21 年度の 5.0%と同じであった。

CL 眼障害は点状表層角膜症, アレルギー性結膜炎, 毛様充血, 角膜上皮びらんなどが多かった。重篤な眼障害である角膜潰瘍・角膜浸潤は 11.1%で, 平成 21 年度の 10.8%からわずかながら増加していた。

障害を起こした CL の種類は, HCL が 12.2%で, SCL が 87.2%とこれまでの報告と同様に圧倒的に SCL が多かった。SCL のうち, 2 週間頻回交換 SCL が 45.0%, 1 日使い捨て SCL が 17.6%, 1 週間連続装用使い捨て SCL が 0.7%で, 全体の 63.2%を占めていた。短期間で交換するこれらの SCL は安全性が高いと考えられるが, 使用頻度も高いため実際には数多くの眼障害が発生している。そのため, 使用にあたってはレンズケアを含

めて十分な装用指導が求められる。カラー SCL は平成 20 年度が 2.3%, 平成 21 年度が 3.1%, 平成 22 年度が 4.6%, 度のないカラー SCL は平成 20 年度が 2.9%, 平成 21 年度が 2.9%, 平成 22 年度が 5.7%であった。視力補正を目的としない度のないカラー SCL は, 通常の視力補正用 CL と同様に薬事法によって規制を受けているが, 平成 21 年 11 月 4 日から平成 23 年 2 月 3 日までは経過措置期間であり, 未承認の製品であっても厚生労働省に届出のあったものは販売が許されていた。

医師の処方を受けないで CL を購入した方は, 平成 20 年度が 5.3%, 平成 21 年度が 5.3%, 平成 22 年度が 8.5%と増加していた。インターネット販売による購入は平成 20 年度が 4.2%, 平成 21 年度が 4.9%, 平成 22 年度が 7.3%と大きく増加しており, 通信販売の 1.4%と合わせると非対面販売による購入が 8.7%であった。非対面販売による購入は購入者にとっての利便性は高いが, CL は単なる日用雑貨とは異なり高度管理医療機器であるため, 医師の処方に基づく販売が眼の安全性を守るために求められる。また販売する際には, 十分な適正使用に基づく説明が求められる。定期検査を全く受けていない者は平成 21 年度が 25.7%, 平成 22 年度が 29.0%と増加していた。CL の処方そして販売においては, 定期検査の必要性を十分に指導することが大切である。

おわりに

アンケート調査にご協力いただいた会員の皆様に厚く御礼を申し上げます。

当会より国民ならびに行政に示す貴重な資料となりますので, 今後も継続して本調査を実施する予定です。

なお, 今回のアンケート調査の回収率は 4.5%で, 前年度の 4.4%に比してわずかに増加したとはいえ, 極めて低い回収率であり, 本調査の意義を十分にご理解いただき, 今後の同様の調査にあたっては, より多くの会員の協力を切望いたします。

[引用文献]

- 1) 日本眼科医会医療対策部: コンタクトレンズによる眼障害アンケート調査の集計結果報告. 日本の眼科 70: 439-442, 1999.
- 2) 日本眼科医会医療対策部: コンタクトレンズによる眼障害アンケート調査の集計結果報告 (第 2 報). 日本の眼科 71: 1481-1484, 2000.
- 3) 日本眼科医会医療対策部: コンタクトレンズによる眼障害アンケート調査の集計結果報告 (平成 12 年度). 日本の眼科 72: 1341-1344, 2001.
- 4) 日本眼科医会医療対策部: コンタクトレンズによる眼障害アンケート調査の集計結果報告 (平成 13 年度). 日本の眼科 73: 1381-1384, 2002.

- 5) 日本眼科医会医療対策部：コンタクトレンズによる眼障害アンケート調査の集計結果報告（平成14年度）。日本の眼科 75:219-222, 2004.
 - 6) 日本眼科医会医療対策部：「日本コンタクトレンズ協議会 コンタクトレンズによる眼障害アンケート調査」について。日本の眼科 74:497-507, 2003.
 - 7) 日本眼科医会医療対策部：コンタクトレンズによる眼障害アンケート調査の集計結果報告（平成18年度）。日本の眼科 78:1223-1229, 2007.
 - 8) 日本眼科医会医療対策部：コンタクトレンズによる眼障害アンケート調査の集計結果報告（平成19年度）。日本の眼科 79:1165-1170, 2008.
 - 9) 日本眼科医会医療対策部：コンタクトレンズによる眼障害アンケート調査の集計結果報告（平成20年度）。日本の眼科 80:940-946, 2009.
 - 10) 日本眼科医会医療対策部：コンタクトレンズによる眼障害アンケート調査の集計結果報告（平成21年度）。日本の眼科 81:408-412, 2010.
-